

瀬田川プランクトン調査結果速報

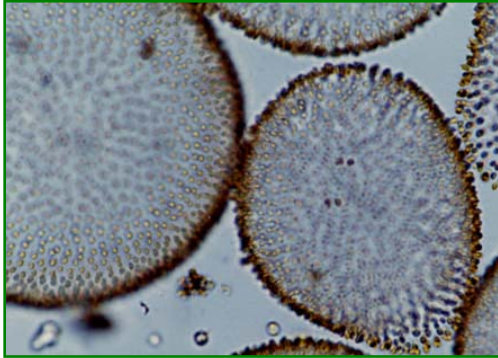
～第37報～

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
生物圏担当

平成19年12月10日

1. 最も数が多かった種類(優占種)

植物プランクトン第1優占種



Uroglena americana

(ウログレナ)

黄色鞭毛藻類

楕円形の細胞が球状の寒天質の表層に規則正しく配列し、球状の群体を形成する。各細胞は不等長の2本の鞭毛を有する。

動物プランクトン第1優占種



Acanthocystis chaetophora

(アカントキスティス)

太陽虫類

体は球形で多くの偽足を放射状に出している。小型の太陽虫で軸足が非常に長いのが特徴である。

コメント

植物プランクトンは種類数、細胞数とも前回より増加した。中でも黄色鞭毛藻に属するウログレナやディノブリオンが増加した。動物プランクトンは、太陽虫に属するアカントキスティスが最も多かった。ピコ植物プランクトンは全て輝橙色であり、先週の3,300細胞/mlから5,200細胞/mlとやや増加した。

2. 見つかった主なプランクトンとその数(個体数)

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体/1)
肉質虫類	<i>Acanthocystis chaetophora</i>	1200

第 2 優 占 種		個体数 (個体/1)
肉質虫類	<i>Raphidocystis</i> sp.	140

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
生物圏担当

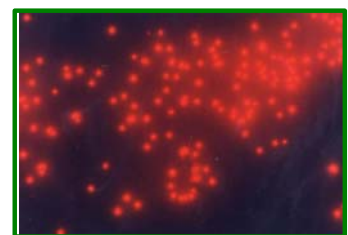
(2) 植物プランクトン

平成19年12月10日

第37報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Microcystis wesenbergii</i> *	1		
(藍) <i>Oscillatoria tenuis</i> *	1		
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	600	◎	
(黄鞭) <i>Dinobryon divergens</i>	360	○	◎
(珪) <i>Aulacoseira granulata</i> var. <i>angustissima</i>	160		
(珪) <i>Cyclotella</i> sp.	10		
(珪) <i>Fragilaria capucina</i>	70		
(珪) <i>Navicula</i> sp.	20		
(緑) <i>Coenocystis</i> sp.	100		
(緑) <i>Dictyosphaerium pulchellum</i>	100		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	20		○
(緑) <i>Staurastrum pingue</i>	1		
(緑) <i>Staurastrum arctiscon</i>	1		
(緑) その他の緑藻	1		
(藍) 藍藻綱	2	0.1	2.1
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	960	66.4	50.2
(珪) 珪藻綱	260	18.0	3.8
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	223	15.4	44.0
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総細胞数	1445	総体積	1.74E+06
種類数	14	(μm^3)	

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)
ただし*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種
数字は各綱ごとの占有率(単位: %)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から
試験的に推定した概算値である。



ピコ植物プランクトン
1,000倍G励起で撮影

(3) 見つかったピコ植物プランクトンとその数(細胞数)

ピコ植物プランクトン数	12月10日 細胞数/ml
藍藻類 <i>Synechococcus</i> sp.	5,200

注1) プランクトンを大きさ別に分類したとき、大きさが0.2~2 μm (1 μm は1mmの1,000分の1) の最も小さなランクのものをピコプランクトンと呼んでいます。この中で光合成色素を持つものをピコ植物プランクトンと呼んでいます。ピコ植物プランクトンは細菌と同じくらい小さいので、落射蛍光顕微鏡を用いて観察し計数します。